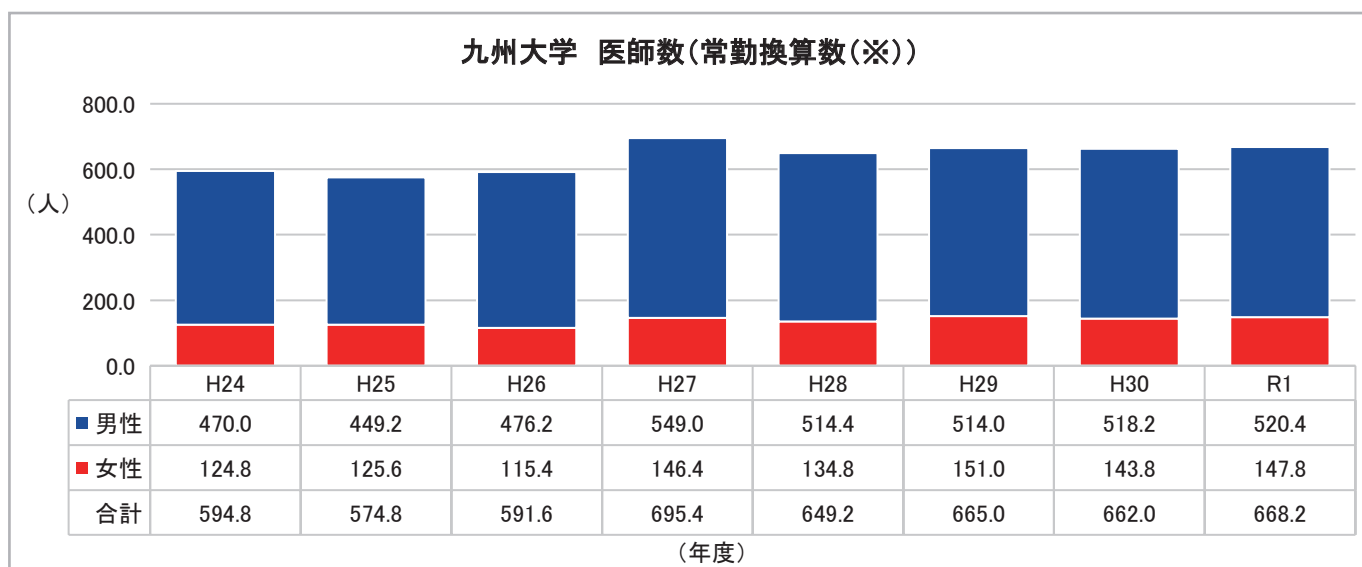
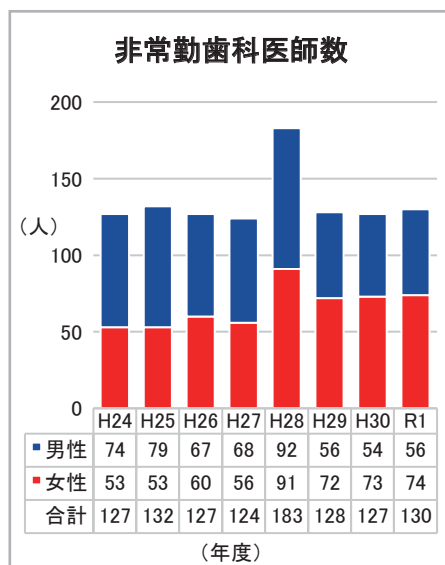
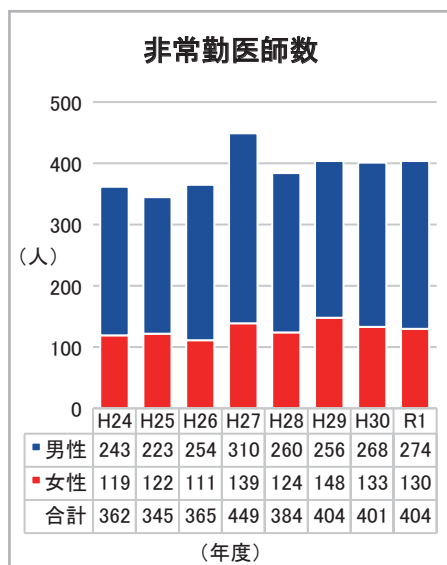
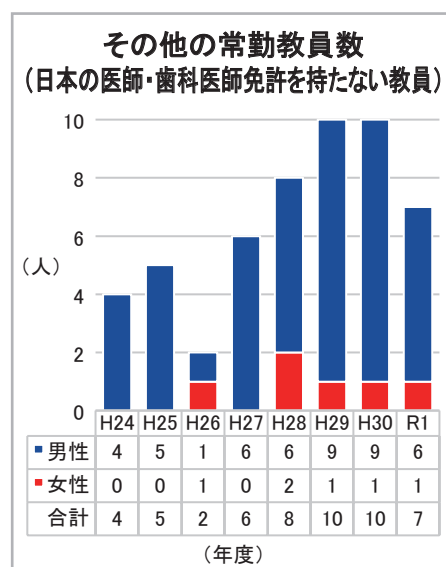
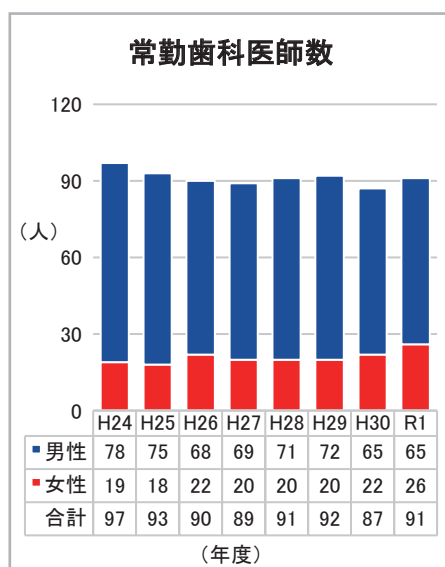
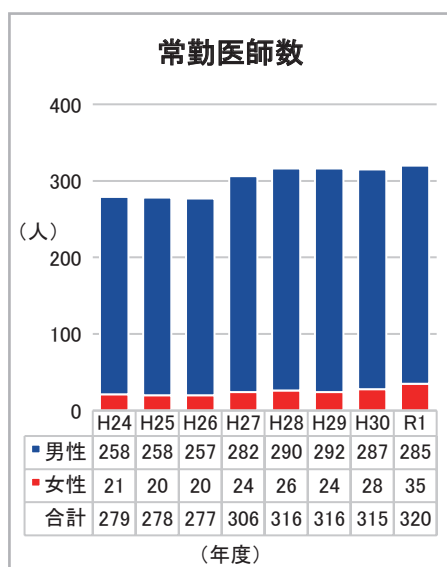


## 12. 附属病院

### 12-1. 医師数等



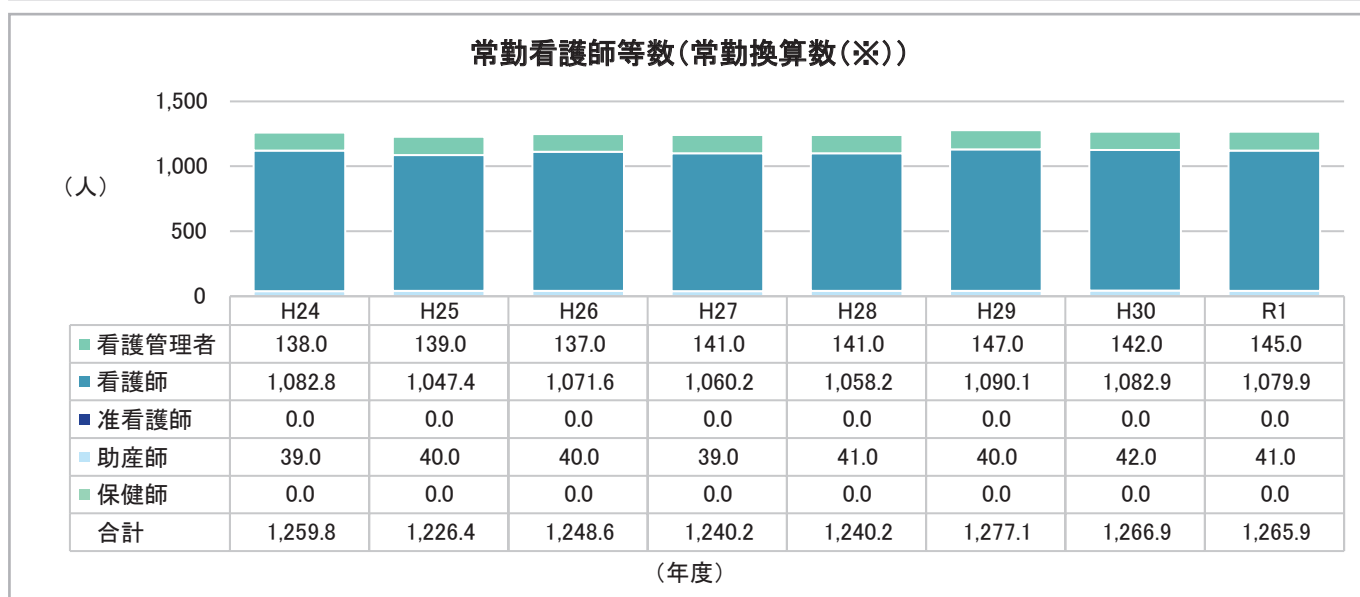
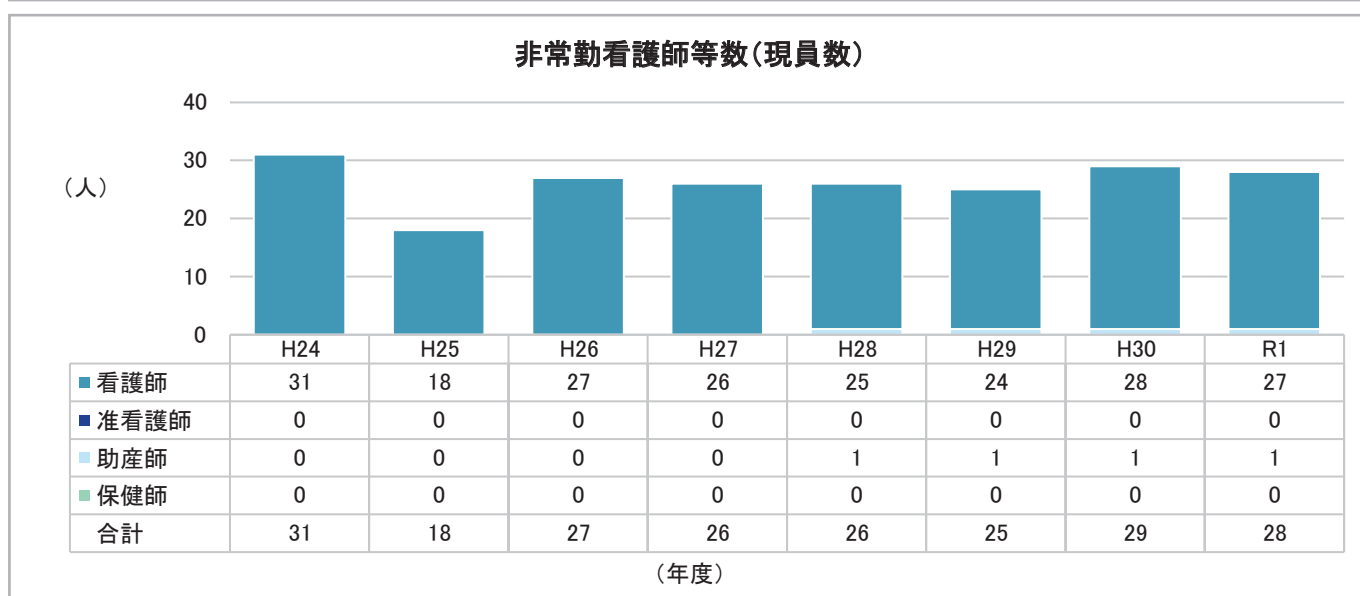
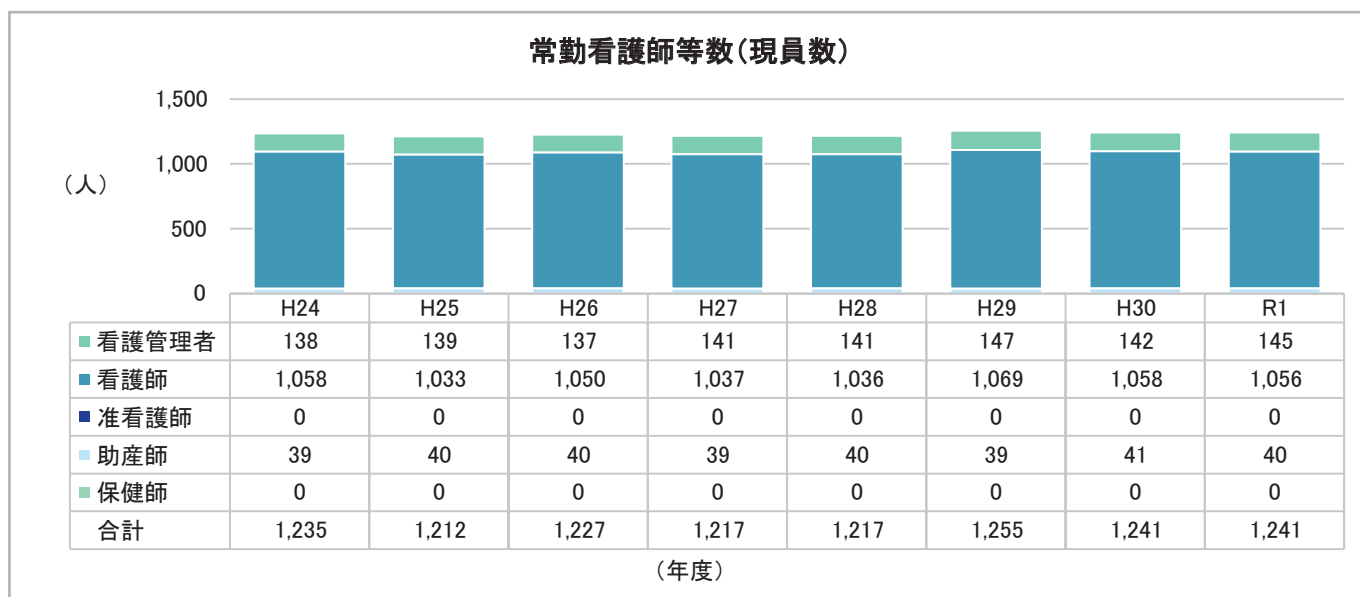
・学部帰属及び病院帰属、任期なし及び任期ありの全てを含む。

・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。

常勤換算数(※)=常勤職員の人数+(非常勤職員の勤務時間/常勤職員が勤務すべき時間)\*非常勤職員の人数

出典: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

## 12-2. 看護職員等



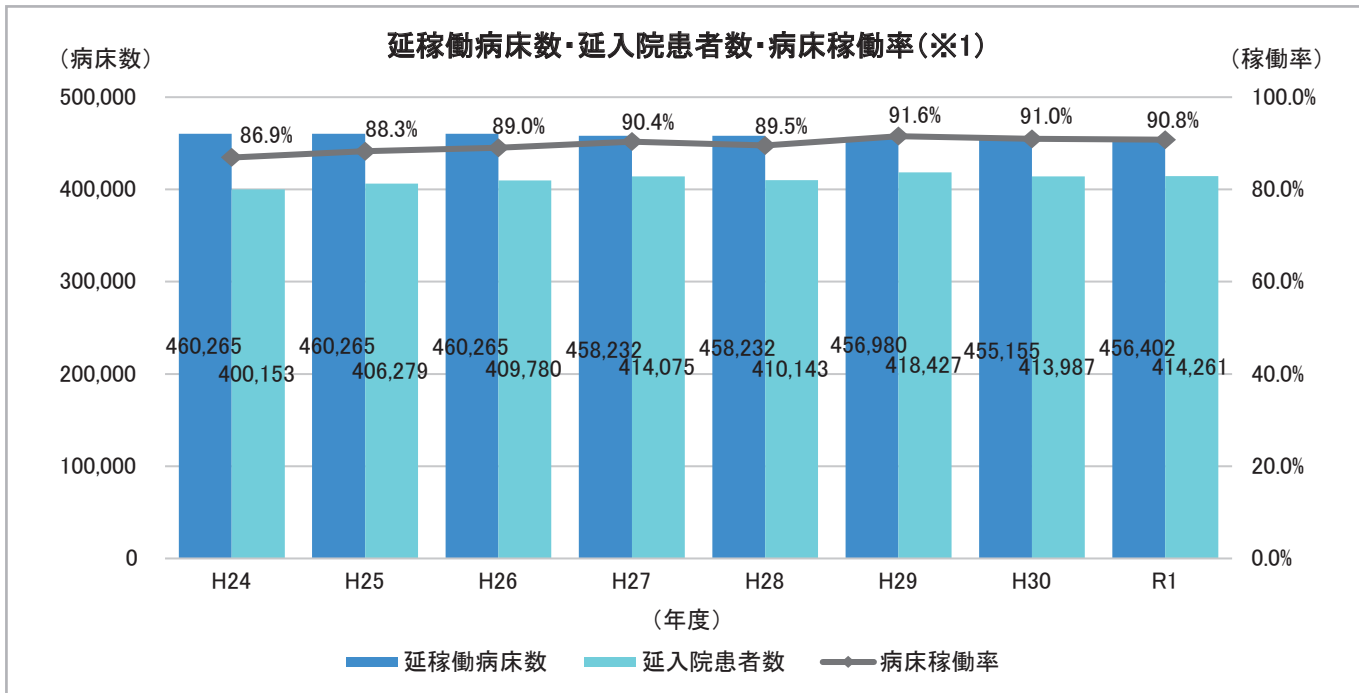
・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。

常勤換算数(※)=常勤職員の人数+(非常勤職員の勤務時間/常勤職員が勤務すべき時間)\*非常勤職員の人数

出典: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

## 12-3. 病床稼働率

### ◆九州大学◆

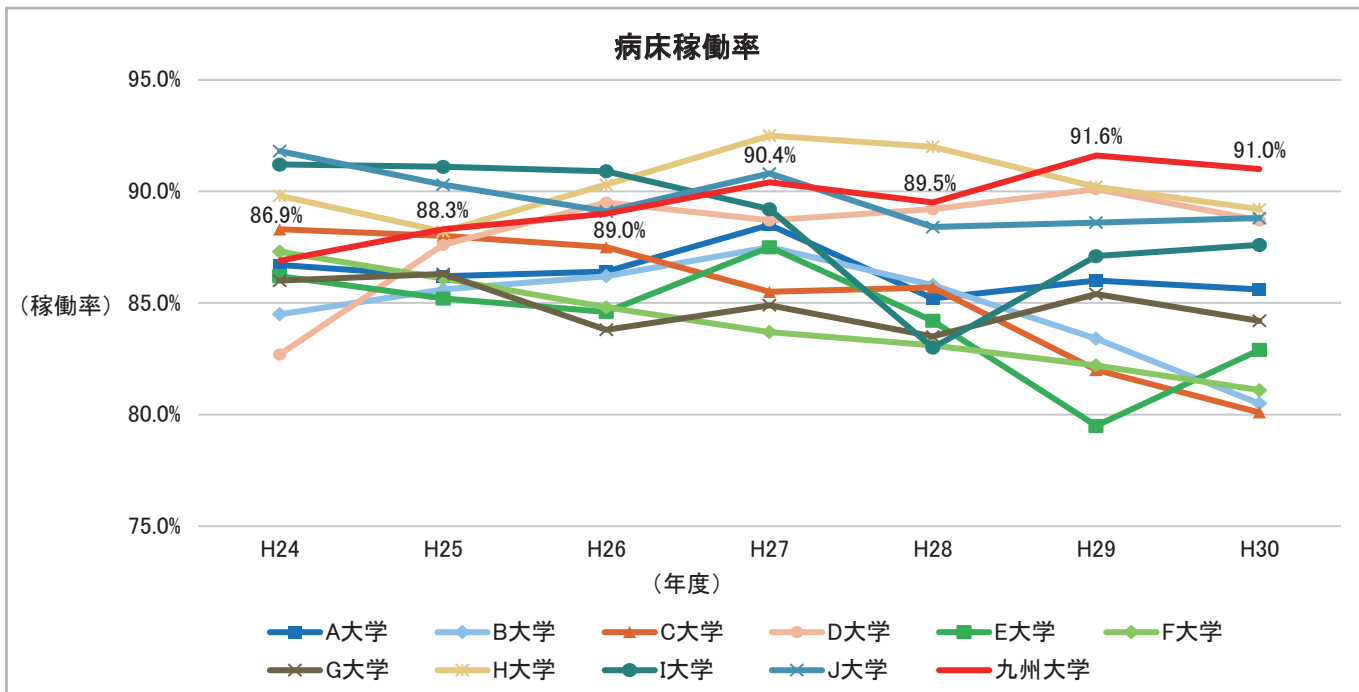


(※1) 床稼働率=延入院患者数 / 延稼働病床数 \*100

病床稼働率とは、病院の病床(ベッド)がどの程度効率的に稼働しているかを示す指標である。100%に近いほど空き病床が無い状態で利用されていることになり、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。

出典: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

### ◆他大学病院◆



・ 本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。

・ 国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。

(※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

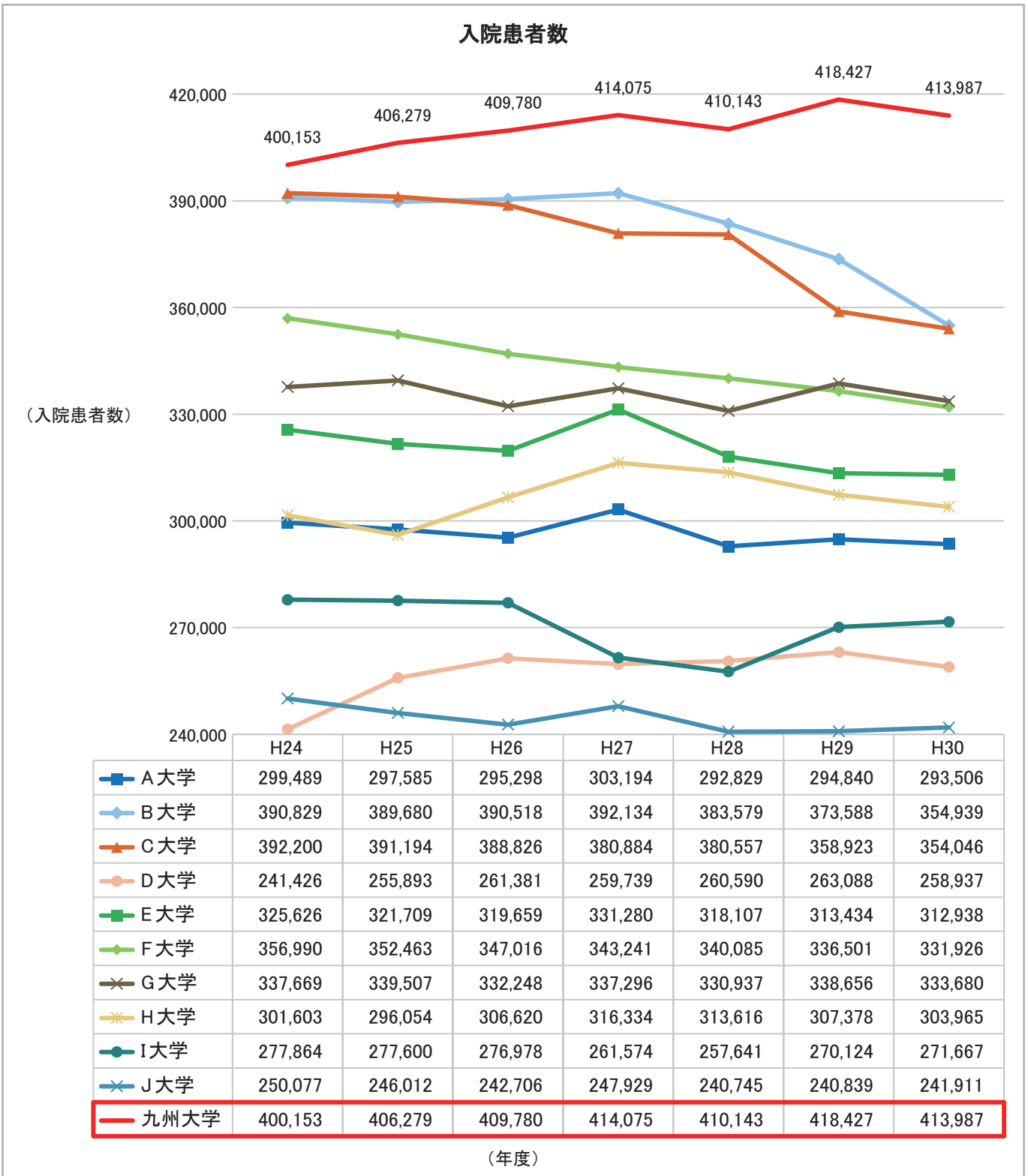
(※2)RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典: 本学: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)  
 他大学: 国立大学病院資料(H24-30年度)

## 12-4. 患者数と手術件数の推移

### 12-4-1. 患者数の推移（入院患者数）

◆九州大学・他大学病院◆



・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。

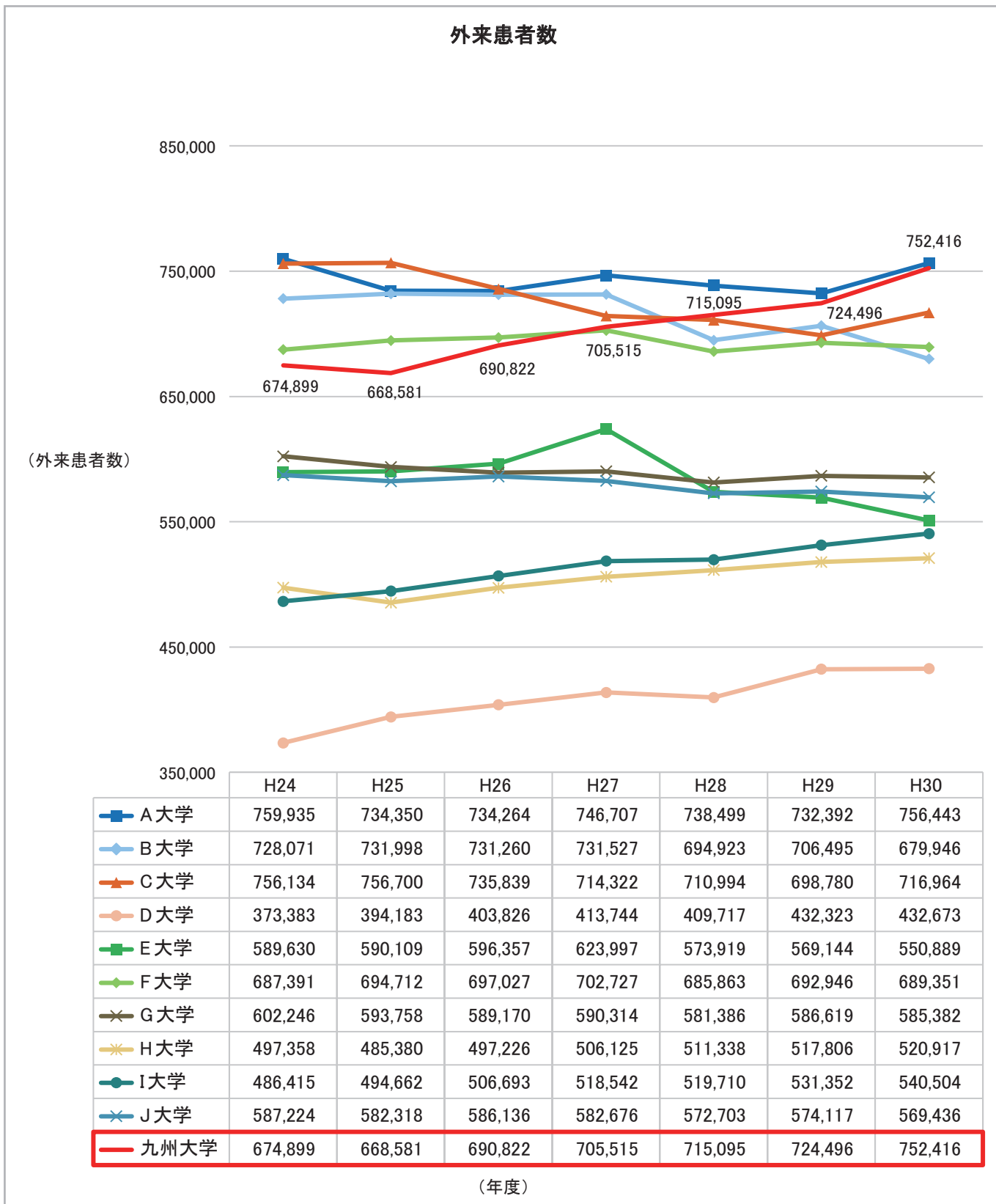
(※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

## 12-4-2. 患者数の推移(外来患者数)

### ◆九州大学・他大学病院◆



・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。

(※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

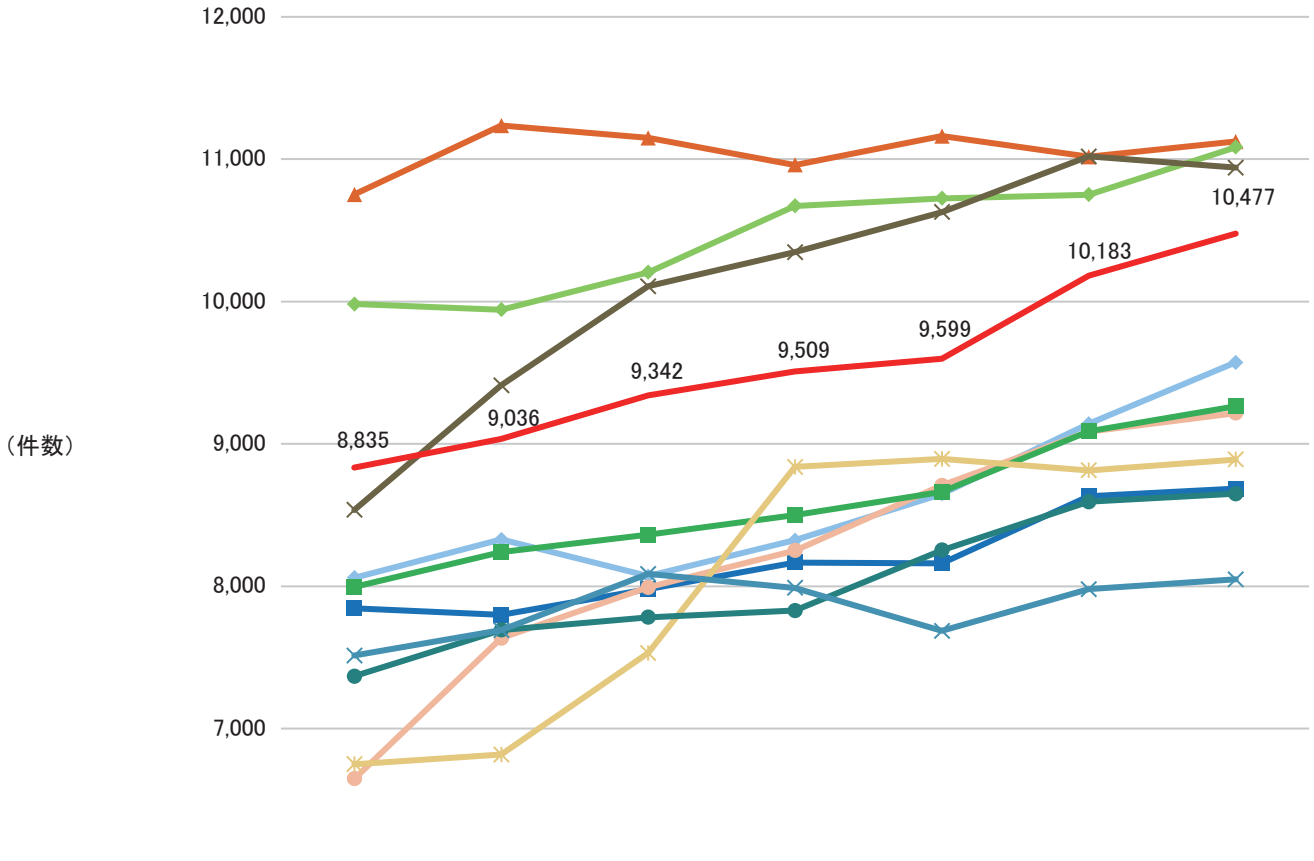
(※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

## 12-4-3. 手術件数の推移

### ◆九州大学・他大学病院◆

手術件数



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
■ A 大学	7,846	7,798	7,981	8,167	8,160	8,632	8,685
▲ B 大学	8,060	8,328	8,071	8,323	8,648	9,141	9,572
▲ C 大学	10,752	11,236	11,150	10,960	11,162	11,017	11,124
● D 大学	6,648	7,635	7,992	8,251	8,708	9,087	9,217
■ E 大学	7,995	8,241	8,362	8,499	8,664	9,088	9,265
◆ F 大学	9,982	9,943	10,205	10,672	10,725	10,751	11,084
× G 大学	8,536	9,412	10,107	10,347	10,628	11,019	10,940
✱ H 大学	6,750	6,818	7,531	8,838	8,894	8,814	8,890
● I 大学	7,368	7,693	7,782	7,829	8,253	8,593	8,649
× J 大学	7,513	7,691	8,087	7,988	7,687	7,980	8,048
— 九州大学	8,835	9,036	9,342	9,509	9,599	10,183	10,477

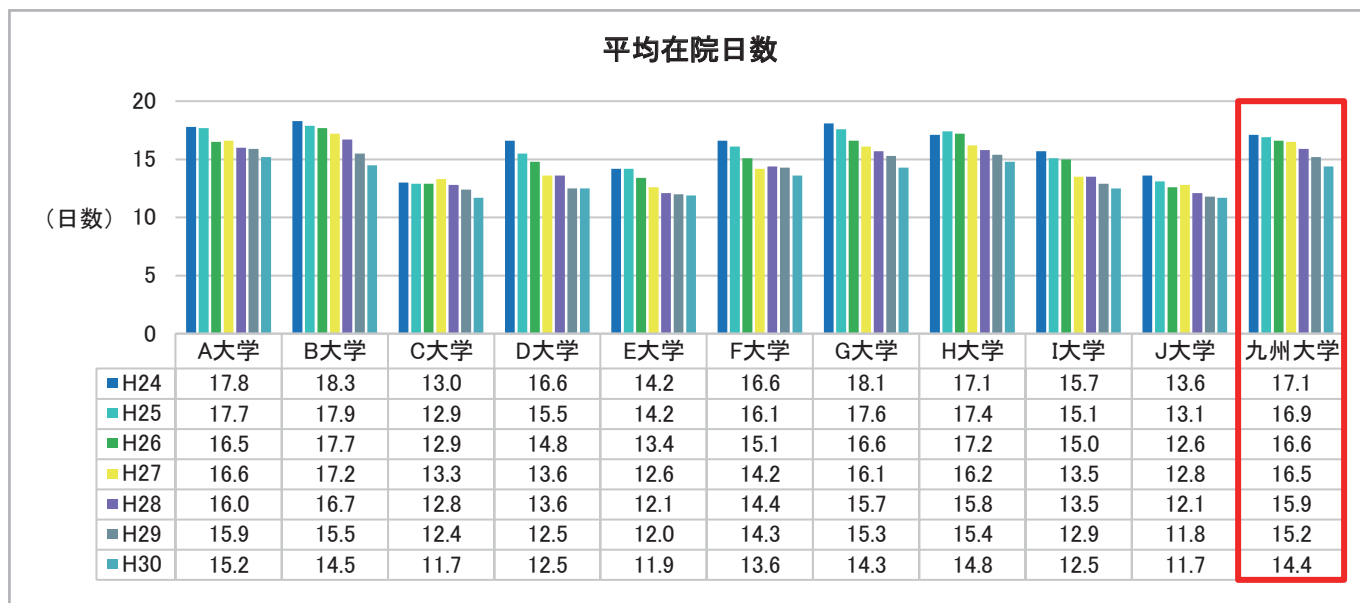
(年度)

- ・ 本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・ 国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。  
 (※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)  
 (※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

## 12-5. 平均在院日数の推移

### ◆九州大学・他大学病院◆

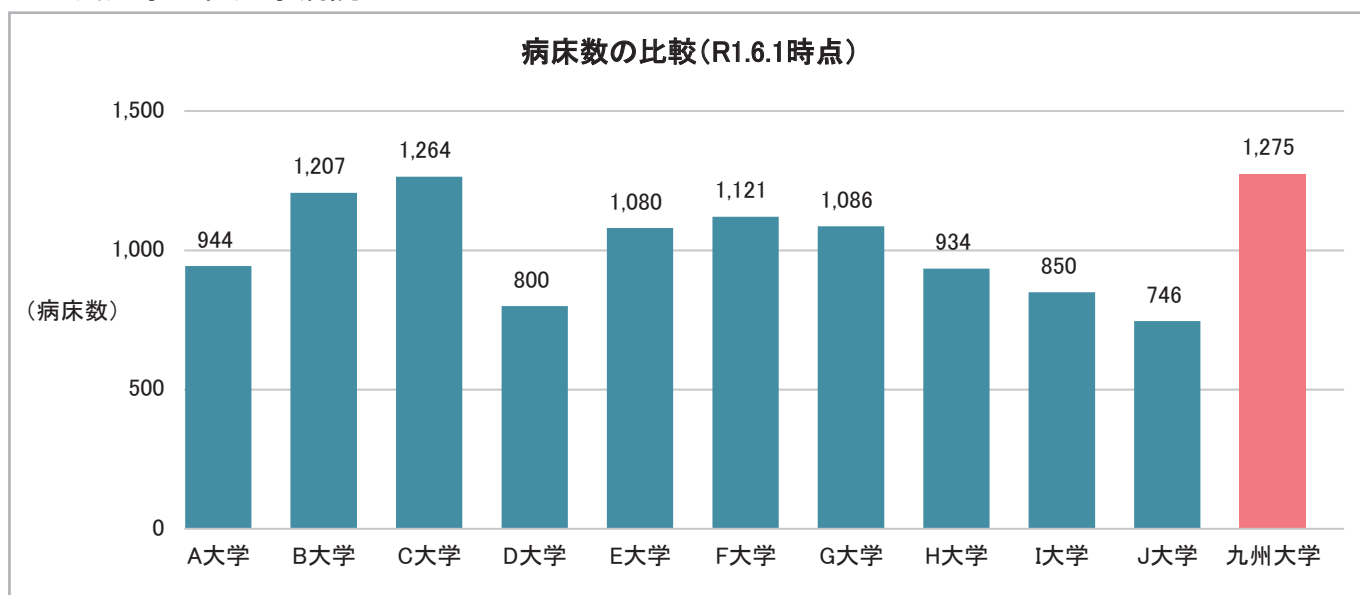


- ・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。  
 (※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)  
 (※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。
- ・平均在院日数とは、病院全体で一人一人の患者が何日間入院しているかを示す指標である。質の保証と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮されるため、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。患者の重症度や疾病により入院日数は異なるため、単純比較できないことに留意。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

## 12-6. 病床数の比較

### ◆九州大学・他大学病院◆



- ・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。  
 (※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)  
 (※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典：国立大学病院資料 診療データ